

0001 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

リスクアセスメントの基本的な流れとして最も適切なものはどれか。

- ア．危険性・有害性を特定し、リスクを見積もり、低減措置の優先度と内容を検討して実施する。
- イ．保護具を配布した後に危険源の有無を考える。
- ウ．事故発生後だけ危険源を確認する。
- エ．危険源を特定したら対策せず終了する。

答え・解説

正答：ア

ア：厚生労働省の指針は、危険性等の特定、リスク見積り、低減措置の検討・実施という流れを示している。
イ：危険源の特定が先である。
ウ：施工前にも実施する。
エ：低減措置まで必要である。
総合解説：リスクアセスメントは危険源を洗い出すだけでなく、優先順位を付けて対策まで実行する活動である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0002 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

一般的なリスク見積りで考慮する組合せとして最も適切なものはどれか。

- ア．作業員の年齢と工事金額だけ。
- イ．災害の重篤度と発生可能性。
- ウ．天気と会社名だけ。
- エ．工期と材料費だけ。

答え・解説

正答：イ

ア：リスク見積りの基本要素ではない。
イ：厚生労働省指針では、負傷・疾病の重篤度と発生可能性の度合を考慮してリスクを見積もる。
ウ：基本要素ではない。
エ：安全リスクの見積りとは異なる。
総合解説：方法はマトリクス法や数値加算・乗算などがあるが、重篤度と可能性を評価する点が共通する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0003 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

リスク低減措置の優先順位として最も適切なものはどれか。

- ア．個人用保護具だけを最優先し、危険源は残す。
- イ．教育だけを行い設備対策は検討しない。
- ウ．危険の除去・低減を設計段階で図り、次に工学的対策、管理的対策、最後に個人用保護具を検討する。
- エ．危険な作業方法を変更せず注意喚起だけにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：上位対策を先に検討する。
イ：工学的対策が優先される。
ウ：厚生労働省指針は、危険の除去・低減、工学的対策、管理的対策、個人用保護具の順を示している。
エ：より上位の対策を検討すべきである。
総合解説：保護具は重要だが、危険源そのものをなくす対策より下位の対策である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0004 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

作業前の危険予知活動（KY）を行う主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．工事原価だけを確認する。
- イ．過去の手順をそのまま読むだけで終了する。
- ウ．事故後に責任者を決める。
- エ．当日の作業条件に潜む危険を具体化し、重点対策と行動を作業者間で共有する。

答え・解説

正答：エ

ア：安全活動の目的ではない。
イ：当日の条件を反映する必要がある。
ウ：事前の危険予知が目的である。
エ：KYは現場・作業の具体的危険を作業前に共有し、不安全行動や見落としを減らす。
総合解説：KYはリスクアセスメントを現場の日常作業へ落とし込む実践的な活動として有効である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0005 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

クレーン据付位置を当日変更することになった。最も適切な対応はどれか。

- ア．地盤、架空線、旋回範囲、立入区域等の危険を再評価し、必要な対策を更新する。
- イ．元のリスクアセスメントをそのまま使う。
- ウ．変更が小さいと判断して誰にも伝えない。
- エ．作業後に変更点を確認する。

答え・解説

正答：ア

ア：作業方法や設備配置の変更はリスクが変化するため、再評価が必要である。
イ：条件変更を反映できない。
ウ：新たな危険が生じる可能性がある。
エ：施工前に確認すべきである。
総合解説：厚労省指針でも作業方法・手順や設備の変更時は調査等の実施時期とされる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0006 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

過去の類似事故が軽傷だった高所作業について、リスクの重篤度を評価する。最も適切な考え方はどれか。

- ア．過去が軽傷なら将来も必ず軽傷とする。
- イ．過去の結果だけでなく、合理的に想定される最も重篤な結果を考慮する。
- ウ．事故件数が少なければ重篤度を0とする。
- エ．作業者の経験が長ければ危険は存在しない。

答え・解説

正答：イ

ア：墜落では死亡等も想定される。
イ：厚労省指針は、過去に実際に発生した重篤度ではなく最悪の状況を想定するよう示している。
ウ：重篤度と発生頻度は別である。
エ：危険源は残る。
総合解説：低頻度でも死亡等の重大結果が想定されるリスクは優先的に対策する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0007 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

電気班と通信班が同じ狭い機械室で同時作業する。最も適切な対応はどれか。

- ア．各班が独立して作業し情報交換しない。
- イ．危険情報は管理者だけが知ればよい。
- ウ．各班の作業内容・危険・立入区域・時間帯を共有し、相互干渉リスクを評価する。
- エ．同じ場所なら全作業を同時に行う。

答え・解説

正答：ウ

ア：混在リスクを見落とす。
イ：作業者への周知が必要である。
ウ：複数事業者・作業班の混在は単独作業にはない接触・誤操作等の危険を生む。
エ：干渉が増える。
総合解説：厚労省指針も混在作業の状況や元方事業者の調査結果を情報として活用することを示している。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0008 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

通常運転時は安全な設備で、故障時だけ盤内へ手を入れて復旧する作業がある。リスクアセスメントとして最も適切な対応はどれか。

- ア．通常運転が安全なら故障時作業は評価不要である。
- イ．故障時は時間がないため保護措置を省略する。
- ウ．事故後だけ手順を考える。
- エ．通常作業だけでなく、故障復旧など非正常作業も対象にして危険を特定する。

答え・解説

正答：エ

ア：非正常作業も対象となる。
イ：危険性が高まる。
ウ：事前計画が必要である。
エ：非正常作業は手順逸脱や予期しないエネルギーに接触する危険が高くなることもある。
総合解説：リスクアセスメントでは定常・非定常の双方の作業情報を集めることが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0009 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

設備対策を行っても完全に除去できない危険が残った。最も適切な対応はどれか。

- ア．残留リスクを明示し、必要な管理措置や保護具、作業条件を関係者へ周知する。
- イ．対策を1つ行えば危険は必ずゼロとみなす。
- ウ．残留リスクは記録しない。
- エ．作業者へ知らせない。

答え・解説

正答：ア

ア：低減後に残るリスクを認識し続けることで、対策の形骸化を防げる。
イ：残留リスクがあり得る。
ウ：周知・記録が必要である。
エ：安全行動につながらない。
総合解説：リスク低減後の再評価と残留リスクの管理が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0010 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

リスクアセスメント結果を記録する利点として最も適切なものはどれか。

- ア．記録すれば現場確認は不要になる。
- イ．危険源、見積り、対策、再評価の経緯を後から確認し、変更時や類似作業へ活用できる。
- ウ．事故がなければ記録は無意味である。
- エ．危険源だけ書き対策は記録しない。

答え・解説

正答：イ

ア：実施状況確認も必要である。
イ：記録は対策の実施状況と残留リスクを継続管理する基礎となる。
ウ：予防活動に活用できる。
エ：対策内容も重要である。
総合解説：厚労省指針では調査対象、リスク見積り、低減措置等の記録が求められる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0011 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

高所で重い機器を手渡しする作業に墜落・落下リスクがある。対策案のうち最も優先して検討すべきものはどれか。

- ア．作業方法は変えず『注意』の掲示だけを増やす。
- イ．保護帽だけ追加する。
- ウ．地上で組立て可能な範囲を増やし、高所での作業そのものを減らす。
- エ．経験者だけなら無対策でよいとする。

答え・解説

正答：ウ

ア：管理的対策に留まる。
イ：必要だが危険源を減らさない。
ウ：危険な高所作業を減らすことは、保護具だけに頼るより上位のリスク低減となる。
エ：危険は残る。
総合解説：本質的・工学的対策を優先し、その上で管理・保護具を組み合わせる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0012 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

朝のKY時は無風だったが、午後から強風となり屋上アンテナ作業の条件が変わった。最も適切な対応はどれか。

- ア．朝にKYをしたので天候変化は無視する。
- イ．工程優先で必ず継続する。
- ウ．作業後に風速を確認する。
- エ．作業を一旦見直し、風の影響を再評価して中止基準や追加対策に照らして継続可否を判断する。

答え・解説

正答：エ

ア：条件が変わっている。
イ：重大事故につながる。
ウ：判断が違い。
エ：現場条件が変化した場合、朝の評価だけに固定せず動的にリスクを見直す必要がある。
総合解説：リスク管理は一度きりではなく、気象・人員・設備・手順の変化に応じて更新する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0013 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

危険作業の作業計画を作成する主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．作業方法、役割、使用機械、危険区域、安全措置を事前に具体化する。
- イ．当日の作業者が自由に方法を決めるため。
- ウ．事故後に責任者を決めるため。
- エ．品質・安全を考えず時間だけ短縮するため。

答え・解説

正答：ア

ア：作業計画は現場作業を安全に実施するための実行基準となる。
イ：標準化が必要である。
ウ：事前計画が必要である。
エ：総合的な計画が必要である。
総合解説：危険性の高い作業ほど計画内容と指揮命令系統を明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0014 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

危険作業の責任者・指揮者に求められる役割として最も適切なものはどれか。

- ア．作業者へ指示せず現場を離れる。
- イ．作業手順と安全条件を確認し、作業者へ指示し、異常時には停止判断を行う。
- ウ．異常時も工程優先で継続させる。
- エ．誰でも同時に異なる指示を出す。

答え・解説

正答：イ

ア：指揮機能がない。
イ：指揮者は計画を現場で実行させ、条件逸脱を防ぐ役割を持つ。
ウ：安全確保を優先する。
エ：混乱を生む。
総合解説：重要作業では指揮命令を一元化し、停止権限も明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0015 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

作業前打合せで確認する内容として最も適切なものはどれか。

- ア．昼食場所だけ。
- イ．昨日の作業内容だけで当日条件は見ない。
- ウ．当日の作業範囲、役割、危険箇所、合図、変更点、緊急時対応。
- エ．危険箇所は作業者に知らせない。

答え・解説

正答：ウ

ア：安全上の主要事項ではない。
イ：当日条件の確認が必要である。
ウ：作業前打合せは計画と当日の現場条件を結び付ける。
エ：周知が必要である。
総合解説：短時間でも重要ポイントを具体的に共有することが有効である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0016 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

クレーン班と高所作業班が同時に作業する場合、最も適切な管理はどれか。

- ア．各班が相手の作業を知らず同時に実施する。
- イ．合図方法を班ごとに変える。
- ウ．作業範囲を区分しない。
- エ．統括者が作業順序と立入区域を調整し、各班の指揮者が統一された計画に従う。

答え・解説

正答：エ

ア：混在災害の原因となる。
イ：誤認しやすい。
ウ：接触・落下物リスクが高まる。
エ：複数班が独自に動くと吊荷と高所作業が干渉する危険がある。
総合解説：混在作業では統括調整と各班内の指揮を組み合わせる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0017 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

屋外高所作業の計画で最も適切なものはどれか。

- ア．強風、雷、豪雨等の中止・退避基準を事前に定め、判断者を明確にする。
- イ．天候に関係なく予定日は必ず施工する。
- ウ．作業者個人の感覚だけで判断する。
- エ．中止権限を誰にも与えない。

答え・解説

正答：ア

ア：異常気象時にその場で迷わないよう、中止条件を計画へ入れる。
イ：危険である。
ウ：客観的基準が必要である。
エ：対応が遅れる。
総合解説：中止基準だけでなく再開条件も決めておくといよい。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0018 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

クレーン作業で複数人が吊荷を見ている場合、最も適切な合図管理はどれか。

- ア．全員が同時に好きな合図を出す。
- イ．合図者を定め、運転者が識別できる統一合図を使用する。
- ウ．合図を事前に決めない。
- エ．運転者が吊荷を見えない場合でも合図者を置かない。

答え・解説

正答：イ

ア：混乱する。
イ：複数人が勝手に合図すると誤操作につながる。
ウ：誤認の原因となる。
エ：安全な操作ができない。
総合解説：無線使用時も用語と優先権を統一する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0019 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

午前と午後で作業範囲が変更され、立入禁止区域も変わる。最も適切な対応はどれか。

- ア．朝の説明だけで午後の変更は伝えない。
- イ．古い立入禁止表示を残して新区域は無表示にする。
- ウ．変更内容を関係者へ再周知し、標示・バリケード・監視位置も更新する。
- エ．変更記録を残さない。

答え・解説

正答：ウ

ア：周知不足である。
イ：誤解を招く。
ウ：現場表示と実際の作業範囲が不一致だと第三者侵入や接触事故を招く。
エ：変更管理が不十分である。
総合解説：作業計画は現場条件の変化に合わせて更新する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0020 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

初めて高所作業車を使用する作業者が加わった。最も適切な管理はどれか。

- ア．他の作業者を見れば分かるとして説明しない。
- イ．資格要件を確認しない。
- ウ．最も危険な作業を最初に単独で任せる。
- エ．必要な資格・教育を確認し、作業手順と緊急時対応を教育した上で適切に指揮する。

答え・解説

正答：エ

ア：不十分である。
イ：法令違反や事故につながる。
ウ：適切でない。
エ：経験不足を放置せず、必要な能力・教育を確保してから作業させる。
総合解説：人員配置では人数だけでなく能力・資格・経験を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0021 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

供用中設備の電源切替と通信切替を複数班で同時に行う。最も適切な管理はどれか。

- ア．全体責任者の下で作業順序とGO/NO-GO判定点を設定し、班間の開始許可を連携させる。
- イ．各班が独自のタイミングで切替する。
- ウ．異常時のロールバック責任者を決めない。
- エ．チェックリストを使わず記憶だけに頼る。

答え・解説

正答：ア

ア：供用設備の複合作業では作業順序の誤りが大規模停止へつながる。
イ：相互依存を無視している。
ウ：復旧が遅れる。
エ：重要作業では不適切である。
総合解説：作業指揮は正常手順だけでなく、異常時の停止・復旧まで一元化する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0022 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

掘削中に図面にはない管が現れ、現場責任者と連絡がつかない。最も適切な対応はどれか。

- ア．通信管と推測して重機で切断する。
- イ．作業を停止して周囲を安全化し、管理者・発注者等へ連絡して管の正体と安全を確認する。
- ウ．責任者不在なので作業判断で撤去する。
- エ．見なかったことにして埋め戻す。

答え・解説

正答：イ

ア：重大事故につながる。
イ：未知の設備が出た場合は独断で継続せず、不確実性を解消するまで安全側へ停止する。
ウ：不適切である。
エ：危険を残す。
総合解説：安全上の不確実性が高い場合、作業停止は重要な管理行動である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0023 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

個人用保護具の選定として最も適切な考え方はどれか。

- ア．どの作業でも同じ保護具1種類だけで十分とする。
- イ．サイズが合わなくても使用する。
- ウ．作業に存在する危険に対応した種類・性能の保護具を選定し、正しく着用する。
- エ．破損していても交換しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：危険に応じて選ぶ。
イ：適切な装着ができない。
ウ：保護具は危険の種類に応じて適切な規格・性能のものを選ぶ必要がある。
エ：性能が確保できない。
総合解説：保護具は上位の安全対策を行った上で、残留リスクに対して使用する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0024 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

保護帽の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．すべての保護帽は同じ用途・性能である。
- イ．保護帽は頭部以外の墜落制止を行う器具である。
- ウ．一度衝撃を受けても必ず永久使用できる。
- エ．飛来・落下物用や墜落時保護用など、想定する危険に応じた種類がある。

答え・解説

正答：エ

ア：用途区分がある。
イ：頭部保護具である。
ウ：点検・交換が必要となる。
エ：厚生労働省は保護帽に飛来・落下物用、墜落時保護用等があることを示している。
総合解説：作業リスクに合う型式検定合格品を適切に使用する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0025 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

クレーンで吊荷を移動する作業で最も適切な立入管理はどれか。

- ア．吊荷の落下・旋回等で危険が及ぶ範囲を立入禁止とし、明確に表示・監視する。
- イ．吊荷の真下を近道として通行させる。
- ウ．立入禁止表示を設けない。
- エ．作業員なら誰でも吊荷下へ入ってよい。

答え・解説

正答：ア

ア：吊荷下や旋回範囲は重大な危険区域である。
イ：危険である。
ウ：第三者侵入を防げない。
エ：必要のない立入りを禁止する。
総合解説：物理的区画と監視を組み合わせると立入管理の実効性が高まる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0026 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

高所で作業床や手すりを設置できない場合の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．経験者なら無対策でよい。
- イ．防網や適切な墜落制止用器具を使用する等、墜落による危険を防止する措置を講じる。
- ウ．保護帽だけで墜落を止める。
- エ．手すりを外したまま立入制限もしない。

答え・解説

正答：イ

ア：経験に関係なく危険はある。
イ：安衛則では高さ2m以上で墜落のおそれがあり作業床設置が困難な場合、代替の墜落防止措置を求めている。
ウ：保護帽は墜落制止用器具ではない。
エ：墜落防止措置が必要である。
総合解説：墜落制止用器具は取付設備・使用方法を含めて適切に計画する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0027 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

墜落制止用器具の使用前確認として最も適切なものはどれか。

- ア．見た目が古くても点検せず使用する。
- イ．フックのロック機能を確認しない。
- ウ．ベルト、縫製部、フック、ランヤード等に損傷・変形・異常がないか確認する。
- エ．一度墜落荷重を受けた器具を無条件で再使用する。

答え・解説

正答：ウ

ア：点検が必要である。
イ：重要な確認項目である。
ウ：保護具が破損していれば期待性能を発揮できない。
エ：メーカー基準等に従い交換・点検が必要である。
総合解説：保護具は保管・定期点検・交換基準も含めて管理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0028 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

建物利用者が通行する廊下の近くで天井内配線作業を行う。最も適切な管理はどれか。

- ア．作業員がヘルメットを着用していれば第三者対策は不要である。
- イ．工具を無固定で天井開口部の端へ置く。
- ウ．通行者へ何も知らせない。
- エ．落下物が及ぶ範囲を区画し、必要に応じて通行止め・迂回や監視員を配置する。

答え・解説

正答：エ

ア：第三者災害を防げない。
イ：落下物リスクがある。
ウ：危険区域へ侵入する可能性がある。
エ：作業員のPPEだけでは第三者を保護できないため、区域分離が必要である。
総合解説：立入管理は作業員保護だけでなく、公衆・施設利用者への危害防止にも重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0029 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：応用

切断作業で飛散物と騒音があり、頭上では別班が作業している。最も適切な保護具管理はどれか。

- ア．保護帽、眼・顔面保護具、必要な聴覚保護具等を危険に応じて組み合わせる。
- イ．保護帽1つで目・耳の危険も全て防げるとする。
- ウ．飛散物があるが保護眼鏡は不要とする。
- エ．騒音が大きいほど耳栓を外す。

答え・解説

正答：ア

ア：複数の危険がある場合、各危険へ対応した保護具を選定する。
イ：保護範囲が異なる。
ウ：眼障害リスクがある。
エ：逆である。
総合解説：保護具選定は作業環境の複合リスクを評価して行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0030 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：応用

立入禁止テープを設置したが、資材搬入のため頻繁に外され、そのまま戻されない。最も適切な改善はどれか。

- ア．テープが一度設置された事実だけで十分とする。
- イ．出入口を限定し、開閉責任者や監視方法を定め、搬入後は確実に区画を復旧する。
- ウ．常時外したままにする。
- エ．通行者の注意だけに依存する。

答え・解説

正答：イ

ア：実効性がない。
イ：表示だけでなく、運用手順まで設計しないと立入管理は機能しない。
ウ：立入禁止にならない。
エ：物理的・管理的対策が必要である。
総合解説：立入禁止措置は現場の物流と両立する運用設計が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0031 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ2m以上の箇所で墜落のおそれがある作業を行う場合の基本として最も適切なものはどれか。

- ア．経験者なら作業床は不要である。
- イ．保護帽だけで足場の代わりにできる。
- ウ．足場を組み立てる等により作業床を設ける。
- エ．足元が狭いほど安全なので作業床を設けない。

答え・解説

正答：ウ

ア：経験に関係なく墜落防止措置が必要である。
イ：墜落防止の代替にはならない。
ウ：労働安全衛生規則では、高さ2m以上で墜落のおそれがある場合、原則として作業床を設ける。
エ：逆である。
総合解説：作業床設置が困難な場合は防網や墜落制止用器具等の代替措置を講じる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0032 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ2m以上の作業床の端や開口部で最も基本的な墜落防止措置はどれか。

- ア．端部を無表示にする。
- イ．作業者の注意だけに頼る。
- ウ．工具箱を置いて代用する。
- エ．囲い、手すり、覆い等を設ける。

答え・解説

正答：エ

ア：危険が増す。
イ：物理的対策を優先する。
ウ：墜落防止設備とはいえない。
エ：作業床端部や開口部は墜落リスクが高く、物理的な墜落防止設備を設ける。
総合解説：設置困難な場合は防網や墜落制止用器具等を用いる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0033 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

幅が1m以上の箇所足場を使用する場合の原則として最も適切なものはどれか。

- ア．原則として本足場を使用する。
- イ．必ず一側足場だけを使用する。
- ウ．足場は設置してはならない。
- エ．幅に関係なく脚立だけを使う。

答え・解説

正答：ア

ア：2024年4月施行の改正規則により、幅が1m以上ある箇所では原則として本足場を使用することが明確化された。
イ：原則は本足場である。
ウ：逆である。
エ：適切な足場を選定する。
総合解説：一側足場の使用範囲は明確化されており、十分な幅があればより安定した本足場を使う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0034 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

足場の点検時期として最も適切なものはどれか。

- ア．完成後だけ。
- イ．その日の作業開始前や、悪天候・地震・組立て・変更等の後。
- ウ．事故が起きた後だけ。
- エ．点検は一度も不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：使用前点検が重要である。
イ：安衛則では作業開始前の点検に加え、悪天候や中震以上の地震、組立て・解体・変更後の点検を求めている。
ウ：予防的に点検する。
エ：法令上必要である。
総合解説：異常を認めた場合は直ちに補修してから使用する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0035 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

足場の法定点検について最も適切なものはどれか。

- ア．誰が点検しても記録不要である。
- イ．作業者全員が別々の基準で点検する。
- ウ．事業者は点検者を指名して点検させる。
- エ．点検者は現場を見なくてよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：点検体制と記録が必要である。
イ：統一した点検が必要である。
ウ：改正安衛則では足場点検者の指名が明確に求められている。
エ：実地点検が必要である。
総合解説：組立て等の後の点検では点検者氏名の記録・保存も重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0036 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

作業開始前点検で手すりの脱落を発見した。最も適切な対応はどれか。

- ア．手すりが1箇所だけなら作業を続ける。
- イ．注意喚起だけで済ませる。
- ウ．作業後に直す。
- エ．作業を開始せず、直ちに補修して安全を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：危険である。
イ：物理的な欠損を補修する必要がある。
ウ：使用前に安全化する。
エ：墜落防止設備の異常を放置して使用してはならない。
総合解説：点検の目的は異常を見つけて補修し、安全状態を回復することである。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0037 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

高所で通信機器を取り付ける際の工具落下対策として最も適切なものはどれか。

- ア．工具落下防止コード等を使用し、下方を立入禁止にする。
- イ．工具を手すり上へ仮置きする。
- ウ．下に人がいても作業を続ける。
- エ．工具をポケットへ無理に詰め込むだけでよい。

答え・解説

正答：ア

ア：墜落だけでなく高所からの飛来・落下物も重大な危険である。
イ：落下しやすい。
ウ：第三者災害につながる。
エ：確実な落下防止とはいえない。
総合解説：高所作業では人の墜落防止と物の落下防止を同時に計画する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0038 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

床開口部に覆いを設ける場合、最も適切な管理はどれか。

- ア．薄い板を置くだけで固定しない。
- イ．十分な強度を持つ覆いを固定し、開口部であることを明示する。
- ウ．覆いの上へ過大荷重を載せる。
- エ．開口部表示を消す。

答え・解説

正答：イ

ア：ずれて危険である。
イ：覆いがずれたり外れたりすると墜落につながるため、固定と表示が必要である。
ウ：破損の危険がある。
エ：危険認識が低下する。
総合解説：やむを得ず覆いを外すときは立入制限や墜落制止措置を講じ、作業後直ちに復旧する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0039 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

配管施工のため足場の中さんを一時的に取り外した。作業終了後の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．翌週まで外したままにする。
- イ．注意表示だけで復旧しない。
- ウ．直ちに原状復旧し、必要な点検を行ってから通常使用する。
- エ．誰にも知らせず撤去状態で引き渡す。

答え・解説

正答：ウ

ア：墜落リスクが残る。
イ：物理的防護が必要である。
ウ：墜落防止設備を一時撤去した場合、不要となった後は直ちに復旧する。
エ：不適切である。
総合解説：足場の一部変更後は点検対象となる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0040 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

強風を伴う台風が通過した翌朝、足場作業を再開する。最も適切な対応はどれか。

- ア．昨日まで正常だったので点検不要とする。
- イ．足場に上がりながら初めて異常を探す。
- ウ．手すりだけ見て他部材は確認しない。
- エ．作業開始前に足場の損傷・緊結・墜落防止設備等を点検し、異常を補修する。

答え・解説

正答：エ

ア：悪天候後は点検が必要である。
イ：使用前に点検する。
ウ：規定項目を確認する。
エ：悪天候後は足場部材の緩みや変形が生じている可能性がある。
総合解説：悪天候後点検は安全な再開条件を確認するために行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0041 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

高所作業車で通信設備を施工する際、最も適切な管理はどれか。

- ア．設置地盤、周囲障害物、作業床の定員・積載、操作資格等を確認して使用する。
- イ．傾斜地でも水平確認なしで使用する。
- ウ．作業床へ定格を超える資材を積む。
- エ．頭上障害物を確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：高所作業車は足場代替として便利だが、転倒・挟まれ・墜落等のリスクがある。
イ：転倒リスクがある。
ウ：過負荷となる。
エ：挟まれ事故につながる。
総合解説：使用前点検と周辺条件確認を行い、適正な操作を徹底する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0042 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場上へ機器と資材を仮置きする場合、最も適切な考え方はどれか。

- ア．足場なら重量制限はない。
- イ．一箇所へ全資材を集中させる。
- ウ．足場の許容積載荷重を確認し、集中荷重や偏荷重を避ける。
- エ．積載量を表示・管理しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：許容荷重がある。
イ：偏荷重となる。
ウ：過積載や偏った荷重は足場の変形・崩壊につながる。
エ：過積載防止ができない。
総合解説：足場は作業床としての安全だけでなく構造安定性も管理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0043 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

大型機器を足場内へ搬入するため手すりを一時撤去する必要がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．手すりを全周撤去し作業後も戻さない。
- イ．撤去中の安全対策を設けない。
- ウ．搬入担当者だけ注意すればよい。
- エ．撤去範囲を最小化し、代替の墜落防止措置と立入管理を行い、搬入後直ちに復旧する。

答え・解説

正答：エ

ア：重大な墜落リスクとなる。
イ：不適切である。
ウ：周辺作業者への対策も必要である。
エ：作業上やむを得ず墜落防止設備を外す場合も、無防備状態を作らないことが重要である。
総合解説：一時撤去は作業計画に組み込み、責任者と復旧確認を明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0044 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

屋上でアンテナ交換を行う日に強風が予想され、クレーン吊荷も屋上近くを通る。最も適切な施工管理はどれか。

- ア．強風時の中止基準、吊荷経路、高所作業区域を統合調整し、必要なら作業を分離・延期する。
- イ．高所班とクレーン班が互いの作業を知らず同時施工する。
- ウ．風速を確認せず工程優先で継続する。
- エ．吊荷下に高所作業者がいても問題ないとする。

答え・解説

正答：ア

ア：墜落・吊荷・気象の複数リスクを個別ではなく統合して管理する必要がある。
イ：混在リスクが高い。
ウ：危険である。
エ：重大な危険である。
総合解説：高所作業では天候と他作業との干渉を含めた作業計画が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0045 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

地山の掘削作業前に最も重要な調査として適切なものはどれか。

- ア．掘削後に土質を初めて確認する。
- イ．地形、地質、地層、亀裂、含水・湧水、埋設物等を確認する。
- ウ．地盤条件は掘削安全と無関係である。
- エ．埋設物は調査対象外である。

答え・解説

正答：イ

ア：遅い。
イ：安衛則では地山崩壊等の危険を防止するため作業箇所の調査を求めている。
ウ：大きく関係する。
エ：損傷防止に重要である。
総合解説：調査結果を掘削勾配、土止め、排水、機械配置へ反映する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0046 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

地山の点検が特に重要となる時期として最も適切なものはどれか。

- ア．完成後だけ。
- イ．毎年1回だけ。
- ウ．作業開始前、大雨の後、地震の後など。
- エ．崩壊してから。

答え・解説

正答：ウ

ア：施工中の安全確保が必要である。
イ：現場状況に応じた点検が必要である。
ウ：地山状態は降雨や地震で急変するため、変状後の点検が重要である。
エ：予防的に点検する。
総合解説：亀裂、湧水、はらみ、落石等の変化を継続監視する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0047 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

建設工事公衆災害防止対策要綱で、適切な勾配を保てる場合を除き、原則として土留工を施すとされる掘削深さはどれか。

- ア．0.1mを超える場合。（ごく浅い掘削から対象とみなす基準案）
- イ．10mを超える場合だけ。（10m超だけを対象とみなす基準案）
- ウ．深さに関係なく土留工は禁止される。（深さに関係なく土留工を禁止する考え方）
- エ．1.5mを超える場合。（要綱の1.5m超という原則基準を採る考え方）

答え・解説

正答：エ

ア：基準と異なる。
イ：基準と異なる。
ウ：逆である。
エ：要綱では、切取り面に土質に見合う勾配を保てる場合を除き、掘削深さ1.5m超で原則として土留工を施すとしている。
総合解説：実際の必要性は深さだけでなく土質・地下水・期間・周辺環境を総合して判断する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0048 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削した土砂を溝の縁近くに高く積むことが危険な理由として最も適切なものはどれか。

- ア．上載荷重が増えて地山・土留めに負担を与え、崩壊や土砂落下の危険を高めるため。
- イ．土砂が軽くなるため。
- ウ．掘削深さが自動的に浅くなるため。
- エ．排水能力が必ず向上するため。

答え・解説

正答：ア

ア：掘削縁部への荷重集中は法面安定性を低下させる。
イ：逆である。
ウ：関係ない。
エ：むしろ排水を妨げる場合がある。
総合解説：掘削土・機械は掘削縁から適切に離して配置する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0049 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削底から急に湧水が増え、法面の土砂が流れ始めた。最も適切な対応はどれか。

- ア．工程優先で掘削を続ける。
- イ．作業を停止し退避させ、排水・土止め・地盤状態を再評価する。
- ウ．作業員を増やして手掘りを続ける。
- エ．湧水を無視する。

答え・解説

正答：イ

ア：危険である。
イ：湧水増加は崩壊やボイリング等の危険兆候になり得る。
ウ：根本対策にならない。
エ：重大な変状である。
総合解説：地下水条件が変化した場合は施工計画・土留め計画を見直す。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0050 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削内の作業スペース確保のため切ばりを一時撤去する案が出た。最も適切な対応はどれか。

- ア．邪魔なら作業者判断で外す。
- イ．1本だけなら必ず安全である。
- ウ．構造安定を確認し、承認された代替補強なしに勝手に撤去しない。
- エ．撤去後の変形を見てから考える。

答え・解説

正答：ウ

ア：危険である。
イ：構造計算による確認が必要である。
ウ：切ばりは土圧を支える重要部材で、無断撤去は土留め崩壊につながる。
エ：事前に安全性を確認する。
総合解説：仮設構造物の変更も設計・施工計画の変更として管理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0051 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

深い掘削内へ作業員が出入りする場合、最も適切な管理はどれか。

- ア．土止め材をよじ登る。
- イ．重機のバケットで人を昇降させる。
- ウ．昇降場所を掘削機の旋回範囲内に設ける。
- エ．安全な昇降設備を設け、土砂崩壊や機械動線から離して配置する。

答え・解説

正答：エ

ア：危険である。
イ：不適切である。
ウ：接触危険がある。
エ：掘削内への出入りも転落・崩壊・機械接触のリスクがある。
総合解説：緊急退避も考慮して昇降経路を確保する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0052 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削中に土留壁のはらみと切ばりの変形が確認された。最も適切な対応はどれか。

- ア．直ちに危険区域から退避し、作業を停止して専門的に安定性を確認する。
- イ．変形量を記録せず作業を続ける。
- ウ．切ばりをさらに削って作業空間を広げる。
- エ．見た目だけで安全と判断する。

答え・解説

正答：ア

ア：土留め部材の変形は崩壊の前兆となり得る。
イ：危険である。
ウ：悪化させる。
エ：技術的確認が必要である。
総合解説：変状監視と異常時停止基準を施工計画へ設定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0053 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

前夜に大雨があり、朝の点検で法肩付近に新しい亀裂と湧水が見つかった。最も適切な対応はどれか。

- ア．通常どおり法面下で作業する。
- イ．作業を開始せず、崩壊危険を評価して排水・勾配・補強等の対策を講じる。
- ウ．亀裂を土で隠して作業する。
- エ．点検結果を共有しない。

答え・解説

正答：イ

ア：崩壊に巻き込まれる危険がある。
イ：亀裂と湧水は地山の安定低下を示す重要な兆候である。
ウ：原因は解消しない。
エ：作業者へ危険情報を周知する必要がある。
総合解説：降雨後は地山状態が大きく変化するため、再評価を行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0054 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

既設ガス管に近接した深い掘削で、地下水位も高い。最も適切な施工計画はどれか。

- ア．ガス管位置を図面だけで決め、試掘しない。
- イ．排水だけ行い土留めは検討しない。
- ウ．埋設物管理者と協議し、試掘・防護・土留め・排水・緊急連絡を一体で計画する。
- エ．埋設物管理者へ連絡しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：現地確認が必要である。
イ：地盤安定を確保できない。
ウ：埋設物損傷と地山崩壊の複数リスクを同時に管理する必要がある。
エ：公衆災害防止上不適切である。
総合解説：複合条件では一つの対策だけでなく、施工全体の安全性を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0055 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

移動式クレーンの定格荷重について最も適切な説明はどれか。

- ア．どの作業半径でも常に同じ荷重である。
- イ．吊荷重量より必ず小さく設定する必要はない。
- ウ．地盤状態だけで決まり機械仕様は関係ない。
- エ．作業半径やブーム条件、アウトリガー張出し等に応じて安全に吊れる荷重の上限。

答え・解説

正答：エ

ア：条件により変化する。
イ：定格内で使用する。
ウ：機械条件も重要である。
エ：移動式クレーンの能力は条件で変化するため、最大吊上げ荷重だけを見て判断しない。
総合解説：定格荷重表を作業条件に合わせて確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0056 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

移動式クレーンのアウトリガーの主な役割はどれか。

- ア．車体を支持し、吊上げ時の安定性を確保する。
- イ．吊荷の重量を測定するだけ。
- ウ．ブームの長さを伸ばす装置である。
- エ．電波を送信する装置である。

答え・解説

正答：ア

ア：アウトリガー反力を地盤へ伝えて転倒を防ぐ重要な装置である。
イ：支持・安定が主目的である。
ウ：異なる。
エ：無関係である。
総合解説：張出し幅と地盤支持力の両方が安定性へ影響する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0057 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

クレーンで通信ラックを吊り上げる際、最も適切な立入管理はどれか。

- ア．作業時間が短ければ吊荷下を通過してよい。
- イ．吊荷が落下・振れた場合に危険が及ぶ区域への立入りを禁止する。
- ウ．ヘルメット着用者なら吊荷下へ自由に入れる。
- エ．吊荷が停止中なら吊荷直下で休憩する。

答え・解説

正答：イ

ア：短時間でも危険である。
イ：吊荷下への立入りは重大な飛来・落下災害につながる。
ウ：保護帽で吊荷の衝撃を防げない。
エ：不適切である。
総合解説：立入禁止区域を明示し、必要に応じて監視員を配置する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0058 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

移動式クレーンを軟弱地盤へ設置する際、最も適切な対応はどれか。

- ア．最大張出しなら地盤確認は不要である。
- イ．小さな敷板ほど安全である。
- ウ．地盤支持力を確認し、必要な広さ・強度の敷板等でアウトリガー反力を分散する。
- エ．アウトリガーの一部を浮かせて使う。

答え・解説

正答：ウ

ア：地盤支持力も重要である。
イ：局部圧力が高くなる。
ウ：地盤沈下は定格荷重内でも転倒原因となる。
エ：安定性を損なう。
総合解説：地盤支持と機械条件を一体で評価する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0059 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

吊荷の重心が偏った機器を玉掛けする場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．重心を確認せず1点だけで吊る。
- イ．損傷したワイヤロープを使用する。
- ウ．吊り点の強度を確認しない。
- エ．重心位置を把握し、荷姿・吊り点に適した用具と掛け方で安定して吊る。

答え・解説

正答：エ

ア：不安定になる可能性がある。
イ：危険である。
ウ：破断リスクがある。
エ：重心を無視すると吊上げ時に傾き・滑り・荷崩れが生じる。
総合解説：玉掛け用具の使用荷重・損傷状態・吊り角度も確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0060 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

吊荷の風受面積が大きい機器を強風時に揚重する。最も適切な判断はどれか。

- ア．風の影響と中止基準を確認し、安全を確保できなければ作業を中止する。
- イ．吊荷が重ければ風の影響は必ず無視できる。
- ウ．工程優先で風速を確認しない。
- エ．作業員が吊荷を手で押さえれば必ず安全である。

答え・解説

正答：ア

ア：大きな吊荷は風で振れ、クレーン転倒や接触の危険が増える。
イ：受風面積等により大きく影響する。
ウ：危険である。
エ：巻き込まれ・接触危険がある。
総合解説：強風時は吊荷特性とクレーン安定性の両方を考慮する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0061 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

通信機器を地切りした直後、吊荷が大きく傾きワイヤ1本に荷重が偏っている。最も適切な対応はどれか。

- ア．そのまま高く吊り上げれば安定すると考える。
- イ．直ちに安全に降ろし、重心・玉掛け・吊り点を再確認する。
- ウ．作業員が吊荷の下から手で押す。
- エ．ワイヤの張力差を無視する。

答え・解説

正答：イ

ア：危険が増す。
イ：地切りは吊荷の安定と玉掛け状態を確認する重要な段階である。
ウ：吊荷下へ入るべきでない。
エ：破断・荷崩れにつながる。
総合解説：異常を早期に発見したら、低い位置で安全に修正する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0062 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

重量機器を建物越しに吊り込むため作業半径が大きく、設置地盤の一部は埋戻し土である。最も適切な計画はどれか。

- ア．最大吊上げ荷重だけ見て機種を選ぶ。
- イ．埋戻し地盤でも敷板なしで設置する。
- ウ．最大作業半径での定格荷重、地盤支持力、アウトリガー反力、吊荷経路を計算・確認して機種と配置を決める。
- エ．吊荷経路に人がいても作業を続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：作業半径による能力低下を無視している。
イ：沈下リスクがある。
ウ：揚重計画は荷重条件と支持地盤を同時に確認しなければならない。
エ：立入管理が必要である。
総合解説：クレーン事故防止には事前の揚重計画と現地条件の照合が不可欠である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0063 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

建設工事における公衆災害の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．工事作業員だけに生じる労働災害。
- イ．工事費の超過だけ。
- ウ．工事関係者以外の第三者の生命・身体・財産に対する危害や迷惑。
- エ．工程遅延だけ。

答え・解説

正答：ウ

ア：公衆災害とは対象が異なる。
イ：災害の定義ではない。
ウ：国土交通省は公衆災害を、工事関係者以外の第三者に対する危害・迷惑として整理している。
エ：公衆への危害・迷惑を指す。
総合解説：公衆災害防止では歩行者、車両、近隣住民、隣接施設等への影響を考慮する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0064 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

市街地の工事現場で作業場をさく等で区画する主な目的はどれか。

- ア．作業員の休憩場所を増やすためだけ。
- イ．工事車両の速度を上げるため。
- ウ．現場を見えにくくすることだけ。
- エ．第三者が危険な作業区域へ誤って立ち入ることを防ぐため。

答え・解説

正答：エ

ア：主目的ではない。
イ：逆である。
ウ：安全区画が目的である。
エ：作業場の区分は公衆と施工区域を分離する基本的な公衆災害防止措置である。
総合解説：区画は出入口管理や標示と組み合わせて運用する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0065 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

作業場の出入口の管理として最も適切なものはどれか。

- ア．作業に必要なときは閉鎖し、公衆の立入りを禁ずる標示を行う。
- イ．常時開放し無人にする。
- ウ．標示を行わない。
- エ．出入口を歩道上へ無計画に設ける。

答え・解説

正答：ア

ア：公衆災害防止対策要綱では、出入口は原則閉鎖し立入禁止表示を行うとしている。
イ：第三者侵入の危険がある。
ウ：危険区域と認識できない。
エ：歩行者安全を損なう。
総合解説：車両出入りが頻繁な場合は見張員・誘導等を行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0066 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

歩道上空で高所作業を行う場合、第三者災害防止として最も適切な考え方はどれか。

- ア．作業員が保護帽を着用すれば歩行者対策は不要である。
- イ．工具・材料の落下防止と、危険範囲の通行規制・防護を行う。
- ウ．歩道上へ工具を落としても軽い物なら問題ない。
- エ．通行者へ知らせず直上で作業する。

答え・解説

正答：イ

ア：第三者は保護されない。
イ：高所からの落下物は第三者へ重大な危害を与えるため、物と人の双方を管理する。
ウ：危害の可能性がある。
エ：危険である。
総合解説：落下防止コード、防護棚、立入規制、監視などを現場条件に応じて組み合わせる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0067 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

工事車両が歩道を横断して頻繁に出入りする現場で最も適切な対応はどれか。

- ア．車両を優先し歩行者を無視する。
- イ．見通しが悪くても誘導を行わない。
- ウ．見張員・誘導員を配置し、歩行者と車両の動きを確認して安全に出入りさせる。
- エ．バックで急に歩道へ出る。

答え・解説

正答：ウ

ア：第三者安全を損なう。
イ：接触事故の危険が高い。
ウ：公衆災害防止対策要綱は、出入口を開放する場合に見張員を配置し車両誘導を行う考え方を示す。
エ：危険である。
総合解説：出入口では徐行、清掃、視認性確保も重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0068 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

通信工事で夜間騒音や一時通行規制が発生する。最も適切な公衆対応はどれか。

- ア．当日まで誰にも知らせない。
- イ．工事関係者だけ知ればよい。
- ウ．予定変更があっても周知を更新しない。
- エ．影響範囲と時間を把握し、必要な関係者・近隣へ事前に分かりやすく周知する。

答え・解説

正答：エ

ア：混乱を招く。
イ：第三者影響がある。
ウ：誤情報となる。
エ：事前周知により利用者が迂回・予定調整でき、混乱や二次事故を減らせる。
総合解説：周知内容は工事日時、影響、迂回、問い合わせ先などを明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0069 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

工事により通常の歩道が狭くなる場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．安全な歩行者通路を確保し、段差・障害物・車両接触の危険を防止する。
- イ．歩行者を車道へ無誘導で出す。
- ウ．通路に資材を置く。
- エ．夜間照明を設けず段差を残す。

答え・解説

正答：ア

ア：工事中も歩行者が安全に通行できるよう、通路幅・路面・誘導を管理する。
イ：危険である。
ウ：通行障害となる。
エ：転倒危険がある。
総合解説：高齢者・車いす利用者等も想定した通路計画が望ましい。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0070 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

交差点付近の工事囲いが運転者・歩行者の視界を妨げるおそれがある。最も適切な対応はどれか。

- ア．安全確認できなくても全面を不透明にする。
- イ．必要な範囲で透視性を確保する等、通行者の視界を妨げない措置を講じる。
- ウ．交差点ほど資材を高く積む。
- エ．現場内だけ安全なら外部視界は考えない。

答え・解説

正答：イ

ア：交通事故リスクが高まる。
イ：公衆災害防止対策要綱では、工事用施設が通行者の視界を妨げないよう必要な措置を求めている。
ウ：視認性を悪化させる。
エ：第三者災害対策が必要である。
総合解説：出入口・交差点では死角を作らない配置が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0071 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

設置したバリケードや保安灯について最も適切な管理はどれか。

- ア．設置初日だけ確認する。
- イ．破損しても工事終了まで放置する。
- ウ．設置後も点検し、倒れ・破損・消灯等があれば速やかに復旧する。
- エ．標識が見えなくなっても問題ない。

答え・解説

正答：ウ

ア：継続管理が必要である。
イ：第三者危険が高まる。
ウ：保安施設は設置しただけでなく、工事期間中に機能を維持する必要がある。
エ：機能を失っている。
総合解説：風雨や車両接触後には特に保安施設の状態確認が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0072 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

近隣住民から『夜間に工事囲いが見えにくく危ない』との連絡があった。最も適切な対応はどれか。

- ア．苦情は全て無視する。
- イ．現場確認せず問題なしと回答する。
- ウ．囲いを撤去して無区画にする。
- エ．現地を確認し、照明・反射材・標示など安全上必要な改善を行い、対応結果を記録する。

答え・解説

正答：エ

ア：危険兆候を見逃す。
イ：事実確認が必要である。
ウ：別の危険を生む。
エ：第三者からの情報は公衆リスクの早期発見につながる場合がある。
総合解説：公衆とのコミュニケーションも安全管理の一部である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0073 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

高所作業中に小さな部品が歩道へ落下したが、幸い通行人には当たらなかった。最も適切な対応はどれか。

- ア．作業を停止して落下原因と防護範囲を見直し、再発防止後に再開する。
- イ．被害がないので何もせず続ける。
- ウ．落下物を回収せず放置する。
- エ．記録せず作業員だけを叱る。

答え・解説

正答：ア

ア：被害がなくても重大事故につながり得るヒヤリ・ハットとして扱う必要がある。
イ：再発時に事故となる可能性がある。
ウ：第三者危険となる。
エ：原因対策が不足する。
総合解説：落下防止措置、資材置場、通行規制範囲を再確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0074 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

利用者がいる庁舎内で天井通信工事を行う。作業区域直下は主要通路である。最も適切な施工計画はどれか。

- ア．利用者通行中でも直上で無防護作業する。
- イ．利用者動線を分離し、作業時間調整、養生・落下防護、監視、案内を組み合わせる。
- ウ．通路規制を無表示で行う。
- エ．工事班だけに周知し施設管理者と調整しない。

答え・解説

正答：イ

ア：落下物事故の危険がある。
イ：供用施設では作業者安全だけでなく、一般利用者の動線・行動を前提に計画する。
ウ：混乱・転倒につながる。
エ：供用管理との連携が必要である。
総合解説：第三者が存在する現場では施工時間と空間を分離する対策が有効である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0075 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

道路上または道路に接して工事を行う場合、最も基本的な対応はどれか。

- ア．交通量を確認せず作業を始める。
- イ．工事標識を一切設けない。
- ウ．事前に道路状況と交通処理方法を検討し、道路管理者・警察等の指示に従って必要な標識等を設置する。
- エ．道路管理者との調整を不要とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：危険である。
イ：第三者が危険を認識できない。
ウ：公衆災害防止対策要綱は、一般交通の危険・渋滞防止と歩行者安全のため事前検討を求める。
エ：必要な手続・調整がある。
総合解説：交通規制計画は工事工程と一体で作成する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0076 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

公衆災害防止対策要綱で、道路上または道路に接する夜間工事の保安灯に求められる視認性として最も適切なものはどれか。

- ア．夜間5m前方だけで見えればよい。
- イ．昼間だけ見えればよい。
- ウ．光を出さない標識だけでよい。
- エ．夜間150m前方から視認できる光度。

答え・解説

正答：エ

ア：不足する。
イ：夜間工事の保安灯である。
ウ：夜間の視認性が必要である。
エ：要綱では高さ1m程度で、夜間150m前方から視認できる光度を有する保安灯を求めている。
総合解説：設置間隔も交通流に対面する部分とその他の部分で基準が異なる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0077 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

交通量の多い道路工事で、工事を予告する標識・標示板を設ける位置として要綱上適切な範囲はどれか。

- ア．工事箇所前方50mから500mの間の視認しやすい箇所。
- イ．工事箇所の1m前だけ。
- ウ．工事箇所から10km以上先だけ。
- エ．工事箇所の後方だけ。

答え・解説

正答：ア

ア：公衆災害防止対策要綱では工事予告標識等を前方50～500mの間に設置するとしている。
イ：十分な予告距離がない。
ウ：基準範囲と異なる。
エ：進入車両への予告にならない。
総合解説：道路条件に応じて運転者が安全に認知・減速できる配置を選ぶ。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0078 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

道路工事の作業場出入口で大型車両が出入りする。最も適切な対応はどれか。

- ア．車両が大きいほど誘導員は不要である。
- イ．必要に応じて交通誘導員を配置し、道路標識・コーン等と組み合わせて誘導する。
- ウ．一般車両へ急停止を強いるように出庫する。
- エ．歩行者の存在を確認しない。

答え・解説

正答：イ

ア：死角が大きく危険である。
イ：公衆災害防止対策要綱では作業場出入口等への交通誘導員配置を示している。
ウ：危険である。
エ：第三者事故につながる。
総合解説：車両と歩行者の双方を確認できる配置と合図を計画する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0079 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

道路に面した工事囲いへ夜間保安灯を設置する。交通流に対面する部分の標準的な設置間隔として最も適切なものはどれか。

- ア．20m程度。（保安灯を二十メートル級の粗い間隔で並べる案）
- イ．100m程度。（百メートル級の長区間ごとに設置する案）
- ウ．2m程度。（交通流対面部を二メートル程度で連続表示する案）
- エ．間隔は全く管理しない。（設置間隔を管理せず任意配置とする案）

答え・解説

正答：ウ

ア：間隔が大きすぎる。
イ：視認・連続性が不足する。
ウ：要綱では交通流に対面する部分は2m程度、その他の道路に面する部分は4m以下としている。
エ：要綱に基準がある。
総合解説：囲いの角など視認性の変わる部分には特に留意する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0080 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

日中掘削した道路を夜間一般車両へ開放する場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．掘削穴を無防護で残す。
- イ．大きな段差を無表示で残す。
- ウ．碎石を撒くだけで状態確認しない。
- エ．仮舗装や覆工等を行い、周囲路面との危険な段差を生じさせない。

答え・解説

正答：エ

ア：重大事故につながる。
イ：車両事故の原因となる。
ウ：安全な路面状態を確認する。
エ：一般交通へ供する路面は安全に走行できる状態へ復旧する必要がある。
総合解説：仮復旧部も日々点検し、沈下・段差があれば補修する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0081 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

工事のため一般交通を迂回させる場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．迂回路の入口と要所に見やすい案内標を設置し、通行者が迷わず通過できるようにする。
- イ．迂回開始地点だけ無表示にする。
- ウ．途中の分岐で案内をなくす。
- エ．大型車が通れない経路でも確認せず案内する。

答え・解説

正答：ア

ア：公衆災害防止対策要綱はまわり道の入口・要所への案内標を示すを求める。
イ：混乱する。
ウ：誤進入を招く。
エ：経路条件を事前確認する。
総合解説：迂回路の幅員、交差点、歩行者等も事前に確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0082 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

同一道路で隣接して別会社の工事も行われる。最も適切な対応はどれか。

- ア．互いの規制計画を共有しない。
- イ．双方の施工者で交通規制・誘導方法を調整し、標識や誘導が矛盾しないようにする。
- ウ．同じ場所で反対方向の誘導を行う。
- エ．標識位置を競合させて見えなくする。

答え・解説

正答：イ

ア：危険である。
イ：近接工事で別々の指示を出すと運転者が混乱し事故につながる。
ウ：混乱する。
エ：公衆安全を損なう。
総合解説：交通管理は工事単位ではなく道路利用者から見で一貫したものにす。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0083 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

工事車両が出入口で一般車両と接触した。最も適切な初動はどれか。

- ア．工事工程を優先して事故車を放置する。
- イ．事故を隠して作業を続ける。
- ウ．負傷者救護と二次事故防止を優先し、警察・道路管理者・関係者へ必要な連絡を行う。
- エ．現場写真だけ撮り救護しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：二次事故を招く。
イ：不適切である。
ウ：事故発生時は救命と現場安全を確保し、関係機関への報告・原因調査へつなげる。
エ：救護が最優先である。
総合解説：事故後は誘導方法・出入口条件などの再発防止も見直す。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0084 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

昼夜で交通量が大きく異なる幹線道路で通信管路工事を行う。最も適切な施工計画はどれか。

- ア．交通量に関係なく最混雑時間だけを選ぶ。
- イ．規制解除時の路面復旧時間を見込まない。
- ウ．歩行者経路を計画しない。
- エ．交通量、規制可能時間、歩行者動線、掘削復旧時間を踏まえて作業時間と規制方法を選ぶ。

答え・解説

正答：エ

ア：公衆影響が大きい。
イ：開放に間に合わない。
ウ：第三者災害につながる。
エ：交通への影響と施工効率を両立するには、道路利用状況を工程へ反映する必要がある。
総合解説：道路工事では施工工程そのものが交通安全対策の一部となる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0085 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：基礎

埋設物が予想される場所で掘削する前の基本対応として最も適切なものはどれか。

- ア．管理者の台帳等を確認し、試掘等により種類・位置・深さ・構造を確認する。
- イ．図面があれば現地確認は一切不要である。
- ウ．埋設物位置を推測だけで決める。
- エ．重機で探りながら掘削する。

答え・解説

正答：ア

ア：公衆災害防止対策要綱は台帳に基づく試掘等と原則目視による確認を示している。
イ：図面と現況が異なることがある。
ウ：損傷事故につながる。
エ：危険である。
総合解説：埋設物管理者との協議・立会いも重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0086 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：基礎

架空電線・通信線近くでクレーンや高所作業車を使用する際の基本として最も適切なものはどれか。

- ア．運転者が見れば分かるので事前確認しない。
- イ．線路位置と安全な離隔を事前確認し、機械の作業範囲・監視方法を計画する。
- ウ．吊荷だけ接触しなければブームは触れてよい。
- エ．夜間は架空線が見えにくいほど安全である。

答え・解説

正答：イ

ア：死角や誤操作がある。
イ：ブーム・作業床・吊荷等が架空線へ接近・接触しないよう事前計画が必要である。
ウ：ブーム接触も危険である。
エ：逆である。
総合解説：必要に応じて線路管理者との協議、防護、監視員配置等を行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0087 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

ガス管に近接して通信管路を掘削する場合、事前協議で確認すべき内容として最も適切なものはどれか。

- ア．工事費だけ。
- イ．作業員の昼食場所だけ。
- ウ．防護方法、立会いの有無、緊急時連絡先、各段階の保安措置。
- エ．完成後の広告方法だけ。

答え・解説

正答：ウ

ア：保安上の事項が必要である。
イ：関係ない。
ウ：要綱は埋設物管理者・関係機関との協議で保安措置や連絡方法等を定めるとしている。
エ：保安協議ではない。
総合解説：埋設物損傷時に迅速に対応できる連絡体制も事前に準備する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0088 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

掘削中に管理者不明の管路が出現した。最も適切な対応はどれか。

- ア．不要管と決めつけて切断する。
- イ．そのまま重機で移動させる。
- ウ．写真だけ撮って埋め戻す。
- エ．作業を停止し、再調査と管理者確認を行い、安全を確認してから処置する。

答え・解説

正答：エ

ア：重大事故につながる。
イ：危険である。
ウ：安全確認ができない。
エ：要綱では管理者不明の埋設物を発見した場合、調査を再度行い管理者の立会いを求めるとしている。
総合解説：未知設備は最も不確実性が高いため、安全側へ停止する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0089 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

掘削により既設埋設管が露出した場合、最も適切な管理はどれか。

- ア．協議で定めた方法で支持・防護し、損傷や変位がないか継続点検する。
- イ．宙づり状態のまま放置する。
- ウ．重機の通路として利用する。
- エ．管理者連絡先を分からないままにする。

答え・解説

正答：ア

ア：露出した埋設物は支持地盤を失い、荷重・振動で損傷する可能性がある。
イ：破損の危険がある。
ウ：危険である。
エ：緊急対応が遅れる。
総合解説：名称や管理者連絡先を表示して工事関係者へ注意喚起することも有効である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0090 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

クレーンの旋回範囲内に架空線が入る可能性がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．警報を鳴らすだけで架空線直下へ設置する。
- イ．クレーン配置・ブーム範囲を変更するなど、接近しない作業計画を優先して検討する。
- ウ．運転者の注意だけに依存する。
- エ．架空線を無断で移動する。

答え・解説

正答：イ

ア：接触リスクが残る。
イ：危険源との距離を物理的に確保することは有効な上位対策である。
ウ：誤操作の可能性がある。
エ：管理者との協議が必要である。
総合解説：配置変更が困難な場合は管理者協議、防護・監視など追加措置を講じる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0091 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

図面では水道管が掘削位置から1m離れているが、古い図面で位置精度が不明である。最も適切な対応はどれか。

- ア．図面を絶対視してそのまま重機掘削する。
- イ．管理者情報を確認し、試掘・探査等で実位置を確定してから機械掘削範囲を決める。
- ウ．水道管なら損傷しても公衆災害にならない。
- エ．位置不明ほど大型機械で掘る。

答え・解説

正答：イ

ア：現況確認が必要である。
イ：古い図面のみで安全距離を判断すると現況との差により損傷事故が起こり得る。
ウ：断水・噴出等の影響がある。
エ：危険である。
総合解説：埋設物管理は資料確認と現地確認を組み合わせる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0092 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

地下にガス管、上空に電力線がある狭い場所でクレーンを使って掘削機を搬入する。最も適切な計画はどれか。

- ア．地下だけ確認し上空は無視する。
- イ．上空だけ確認し埋設物を調べない。
- ウ．現場が狭いので事前計画を省略する。
- エ．地下・上空双方の位置と保安条件を確認し、クレーン設置、吊荷経路、掘削範囲を統合して計画する。

答え・解説

正答：エ

ア：架空線接触の危険がある。
イ：掘削損傷の危険がある。
ウ：狭いほど綿密な計画が必要である。
エ：地下と上空の危険を別々に扱うだけでは、機械配置時の複合リスクを見落とす。
総合解説：複数インフラ近接工事では管理者協議と作業範囲の可視化が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0093 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

騒音規制法に基づく特定建設作業の騒音について、敷地境界線での基準として最も適切なものはどれか。

- ア．85dBを超えないこと。（特定建設作業の法定基準値を採る考え方）
- イ．65dBを超えないこと。（より低い騒音値を基準とみなす考え方）
- ウ．100dBを超えないこと。（より高い許容値を採る考え方）
- エ．数値基準は設けられていない。（数値基準を設けないとする考え方）

答え・解説

正答：ア

ア：環境省の基準では、特定建設作業の場所の敷地境界線において85dBを超えないこととされている。
イ：特定建設作業の法定基準値ではない。
ウ：基準より大きい。
エ：基準が定められている。
総合解説：騒音対策では法定基準だけでなく、周辺施設・時間帯・苦情リスクも考慮する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0094 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

建設作業騒音を低減する対策として最も基本的なものはどれか。

- ア．騒音源を住宅側へ近づける。
- イ．低騒音型建設機械を選定し、発生源そのものの騒音を低減する。
- ウ．機械の整備を行わない。
- エ．騒音が大きいほど作業時間を長くする。

答え・解説

正答：イ

ア：影響を増やす。
イ：発生源対策は、周辺で防音するよりも上流側で騒音を減らす有効な方法である。
ウ：異常音の増加につながる。
エ：周辺影響を増やす。
総合解説：低騒音機械、適切な配置、防音設備、作業時間調整を組み合わせる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0095 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

建設作業振動を低減する対策として最も適切なものはどれか。

- ア．振動源を住宅基礎へ直接接触させる。
- イ．機械を不安定に設置する。
- ウ．低振動型機械・工法の採用や機械基礎・施工方法の見直しを行う。
- エ．苦情が出ても施工条件を見直さない。

答え・解説

正答：ウ

ア：振動伝達を増やす。
イ：安全面・振動面とも不適切である。
ウ：環境省は建設作業の振動対策として低振動機械や低振動工法の活用を示している。
エ：対策が必要である。
総合解説：振動は地盤を通じて伝わるため、機械・工法・位置・時間の総合対策が必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0096 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

発電機を住宅に近い側と遠い側のどちらにも設置できる。最も適切な配置はどれか。

- ア．住宅の窓直下へ配置する。
- イ．距離は騒音と無関係なので任意に置く。
- ウ．反射しやすい壁の間に無検討で配置する。
- エ．可能な限り住宅から離し、建物や仮囲いによる遮へいも利用できる位置に配置する。

答え・解説

正答：エ

ア：影響を増やす。
イ：距離減衰がある。
ウ：反射で増幅感が生じる場合がある。
エ：騒音は距離や遮へい条件で周辺到達レベルが変化するため、配置計画が重要である。
総合解説：発生源対策と伝搬経路対策を組み合わせると効果が高い。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0097 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

コンプレッサの騒音対策として防音パネルを設置する場合、最も適切な考え方はどれか。

- ア．騒音源と受音点の間を遮り、隙間や高さにも配慮して設置する。
- イ．騒音源と無関係な遠方へ設置する。
- ウ．パネルに大きな隙間を多数設ける。
- エ．騒音源より著しく低い高さにする。

答え・解説

正答：ア

ア：遮音設備は音の直接伝搬経路を遮るように配置する必要がある。
イ：遮へい効果が小さい。
ウ：音が漏れやすい。
エ：直接音を遮りにくい。
総合解説：吸音・遮音設備は換気や機械冷却を妨げないようにも配慮する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0098 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

学校に近接した現場で大きな騒音が出る作業を行う。最も適切な計画はどれか。

- ア．学校行事を確認せず最大騒音作業を行う。
- イ．授業・試験等の時間を確認し、可能な範囲で影響の小さい時間帯へ作業を調整する。
- ウ．夜間なら必ず問題ないと判断する。
- エ．騒音対策は機械だけで、工程調整は無意味である。

答え・解説

正答：イ

ア：苦情・教育環境への影響が大きい。
イ：法定基準を満たしていても、周辺施設の利用状況を踏まえた配慮が有効である。
ウ：時間規制や近隣影響がある。
エ：時間調整も有効である。
総合解説：環境管理は発生量の低減と曝露時間・時間帯の配慮を組み合わせる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0099 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

同型機械のうち1台だけ異常な金属音と振動が大きい。最も適切な対応はどれか。

- ア．正常機と同じとみなし点検しない。
- イ．さらに回転数を上げて確認する。
- ウ．使用を見直し、緩み・摩耗・損傷等を点検整備する。
- エ．防音壁だけで機械異常を放置する。

答え・解説

正答：ウ

ア：異常兆候を無視している。
イ：悪化・故障の危険がある。
ウ：機械の整備不良は本来より大きな騒音・振動を発生させることがある。
エ：発生源の異常を直すべきである。
総合解説：環境対策と機械保全は関連しており、異常騒音は安全上の故障兆候でもある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0100 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

特定建設作業の法令基準への適合を確認するため騒音を測定する。測定位置として最も適切なものはどれか。

- ア．機械運転席の内部だけ。
- イ．工事現場から10km離れた地点。
- ウ．事務所内だけ。
- エ．特定建設作業の場所の敷地境界線。

答え・解説

正答：エ

ア：法令基準の評価位置ではない。
イ：基準評価として不適切である。
ウ：敷地境界基準を評価できない。
エ：環境省の規制基準は敷地境界線で85dBを超えないこととしている。
総合解説：目的に応じて発生源近傍、敷地境界、苦情地点等を測り分ける。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0101 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

法定基準内で施工しているが、近隣住宅から早朝の騒音苦情が繰り返し寄せられた。最も適切な対応はどれか。

- ア．現地測定と作業内容を確認し、時間帯・機械配置・防音措置等を見直して影響低減を図る。
- イ．基準内なので苦情を全て無視する。
- ウ．測定せず住民側の問題と決めつける。
- エ．作業内容を周知しない。

答え・解説

正答：ア

ア：基準内であっても生活環境への実害や苦情を踏まえて追加対策を検討することが望ましい。
イ：周辺との信頼関係を損なう。
ウ：事実確認が必要である。
エ：誤解・不安を増やす。
総合解説：環境管理では法令適合と近隣コミュニケーションの両方が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0102 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

住宅密集地で夜間にコンクリートはつり作業が必要となった。最も適切な対策計画はどれか。

- ア．最も騒音の大きい機械を使用し時間も延長する。
- イ．低騒音・低振動工法への変更、作業時間短縮、防音・防振、事前周知を組み合わせで検討する。
- ウ．防音だけ行い振動は確認しない。
- エ．工法変更の可能性を検討しない。

答え・解説

正答：イ

ア：周辺影響を拡大する。
イ：騒音・振動は同じ作業から同時に発生するため、工法・機械・時間・伝搬・周知を総合管理する。
ウ：振動影響を見落とす。
エ：発生源低減を優先すべきである。
総合解説：環境影響の大きい作業では複数対策を重ねることが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0103 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

乾燥した土砂を扱う現場で粉じん飛散を抑える基本的な方法として最も適切なものはどれか。

- ア．土砂を高所から自由落下させる。
- イ．強風時ほど養生を外す。
- ウ．散水やシート養生等で粉じんの発生・飛散を抑える。
- エ．乾燥を促進するため散水しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：粉じんが増える。
イ：飛散が増える。
ウ：粉じん対策では発生源を湿潤化し、風による飛散を防ぐ方法が有効である。
エ：粉じん発生が増える。
総合解説：散水は過剰に行うと濁水発生につながるため、両方を考慮する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0104 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

掘削排水に多量の土粒子が含まれている場合、排水前の基本的な処理として最も適切なものはどれか。

- ア．そのまま道路側溝へ流す。
- イ．ポンプ能力を上げて土砂ごと排出する。
- ウ．排水先を確認しない。
- エ．沈砂・沈殿等により土粒子を除去してから適切な排水先へ放流する。

答え・解説

正答：エ

ア：濁水・堆積の原因となる。
イ：環境影響を増やす。
ウ：管理者協議が必要な場合がある。
エ：公衆災害防止対策では土粒子を含む水を沈殿・ろ過等で処理して排水する考え方が示されている。
総合解説：濁水処理では流量、濁度、沈砂容量、排水先条件を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0105 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

工事車両が現場から泥を道路へ持ち出すことを防ぐ対策として最も適切なものはどれか。

- ア．タイヤ洗浄や場内路面清掃を行い、道路へ泥土を持ち出さない。
- イ．泥が付いたまま一般道路へ出る。
- ウ．道路上で自然に落ちるのを待つ。
- エ．雨天時ほど洗浄を中止する。

答え・解説

正答：ア

ア：道路汚損は粉じん・滑走・第三者事故につながるため、出入口管理が重要である。
イ：道路汚損となる。
ウ：第三者危険がある。
エ：泥の持出しが増える。
総合解説：出入口には必要に応じて洗車設備・敷鉄板・清掃体制を設ける。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0106 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

土砂仮置場で強風が予想される。最も適切な対応はどれか。

- ア．シートを外して風通しを良くする。
- イ．シート固定、散水、仮置高さ低減等を行い、必要なら作業を停止する。
- ウ．仮置土をさらに高く積む。
- エ．周辺道路の清掃を停止する。

答え・解説

正答：イ

ア：飛散が増える。
イ：強風時は飛散量が増えるため、養生強化や作業中止判断が必要である。
ウ：風を受けやすくなる。
エ：影響が拡大する。
総合解説：天候変化に応じて粉じん対策を強化する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0107 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

粉じん対策として散水を増やしたところ場内から濁水が流出し始めた。最も適切な対応はどれか。

- ア．濁水が増えるほど散水を増やす。
- イ．粉じん対策を全て中止する。
- ウ．粉じん抑制に必要な散水量へ調整し、排水・沈砂設備も整える。
- エ．濁水を無処理で放流する。

答え・解説

正答：ウ

ア：環境負荷が増える。
イ：別の問題が生じる。
ウ：一つの環境対策が別の環境負荷を生まないようバランスを取る必要がある。
エ：不適切である。
総合解説：粉じんと濁水は相互に関連するため、施工条件に応じた総合管理が必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0108 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

仮設沈砂池に土砂が堆積し、有効容量が大きく減少している。最も適切な対応はどれか。

- ア．堆積したまま使用し続ける。
- イ．流入口と流出口を直結する。
- ウ．土砂量を確認しない。
- エ．堆積土砂を適切に除去し、必要な滞留容量を回復する。

答え・解説

正答：エ

ア：越流・濁水流出の原因となる。
イ：沈殿時間がなくなる。
ウ：維持管理が必要である。
エ：沈砂池は容量が不足すると土粒子除去性能が低下する。
総合解説：降雨前後には沈砂池・排水路の状態を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0109 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

工事排水を公共下水道や河川へ流す可能性がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．排水方法・水質条件を確認し、必要な管理者協議・許可等を行う。
- イ．最も近い水路へ無断放流する。
- ウ．水質確認は不要とする。
- エ．排水量が多いほど協議不要とする。

答え・解説

正答：ア

ア：排水先にはそれぞれ管理条件があり、施工者の判断だけで放流してはならない。
イ：不適切である。
ウ：排水条件に適合する必要がある。
エ：逆に影響が大きい。
総合解説：排水計画は施工前に排水先、処理、流量を明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0110 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

近隣店舗から商品に粉じんが付着するとの苦情があった。現場では散水しているが、ダンプ出入口から乾いた泥が道路へ持ち出されている。最も適切な対応はどれか。

- ア．散水しているので苦情原因は現場ではないと決める。
- イ．出入口のタイヤ洗浄・道路清掃を強化し、飛散源となっている泥土を除去する。
- ウ．道路上の泥を放置する。
- エ．店舗側に窓を閉めるよう求めるだけ。

答え・解説

正答：イ

ア：発生源が残っている。
イ：散水だけでなく、実際の発生源を特定して対策する必要がある。
ウ：車両走行で再飛散する。
エ：発生源対策が必要である。
総合解説：環境苦情は現場を観察し、発生源・伝搬経路を切り分ける。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0111 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

大雨予報が出ており、掘削土仮置場と沈砂池が満杯に近い。最も適切な事前対応はどれか。

- ア．降り始めてから初めて沈砂池を確認する。
- イ．仮置土のシートを外しておく。
- ウ．仮置土の養生、沈砂池の堆積土除去、排水路確認、予備ポンプ等を事前に整える。
- エ．排水ポンプの電源・能力を確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：対応が遅い。
イ：流出が増える。
ウ：豪雨時は土砂流出と濁水処理能力不足が同時に発生しやすいため、事前準備が重要である。
エ：冠水リスクがある。
総合解説：環境管理は平常時だけでなく、悪天候時の最大負荷を想定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0112 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

建設リサイクル法の基本的な考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．建設廃棄物を全て混合して最終処分する。
- イ．再利用可能な資材も必ず焼却する。
- ウ．工事現場での分別を禁止する。
- エ．対象建設工事で分別解体等を行い、特定建設資材廃棄物の再資源化等を進める。

答え・解説

正答：エ

ア：法の趣旨と逆である。
イ：再資源化を進める。
ウ：分別が重要である。
エ：建設リサイクル法は建設廃棄物の分別と再資源化を促進するための制度である。
総合解説：発生抑制、分別、再使用・再資源化、適正処分の順で考える。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0113 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

産業廃棄物管理票（マニフェスト）の主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．排出事業者が委託した産業廃棄物の処理終了までを確認すること。
- イ．材料の購入価格を決めるため。
- ウ．作業員の出勤を記録するため。
- エ．建設機械の点検を記録するため。

答え・解説

正答：ア

ア：環境省はマニフェストを産業廃棄物とともに流通させ、処理終了を確認するための管理票と定義している。
イ：廃棄物処理管理票である。
ウ：用途が異なる。
エ：用途が異なる。
総合解説：電子マニフェストでは電子情報により処理終了を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0114 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

建設廃棄物を現場で種類ごとに分別する主な利点として最も適切なものはどれか。

- ア．分別すると必ず廃棄量が増える。
- イ．再資源化しやすくなり、混合廃棄物の発生を減らせる。
- ウ．全て混合した方が資源化しやすい。
- エ．分別表示は不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：逆に再資源化しやすくなる。
イ：コンクリート、金属、木くず等を分けることで適正処理・リサイクルがしやすくなる。
ウ：選別負荷が増える。
エ：誤混入防止に必要である。
総合解説：分別容器・表示・保管場所を施工計画で確保することが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0115 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

現場内で産業廃棄物を一時保管する場合、最も適切な管理はどれか。

- ア．通路へ無表示で混在保管する。
- イ．風で飛散する状態にする。
- ウ．種類を区分・表示し、飛散・流出・混入等を防止して適切に保管する。
- エ．雨水で流出しても対策しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：事故・誤処理につながる。
イ：環境汚染となる。
ウ：保管中も周辺環境への影響や誤処理を防ぐ管理が必要である。
エ：不適切である。
総合解説：廃棄物保管は施工動線や火災・飛散リスクも考慮する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0116 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

撤去したケーブルラックの一部が健全で、再使用が設計上認められる場合の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．健全でも全て廃棄する。
- イ．状態確認せず再使用する。
- ウ．再使用品と廃棄品を無区分で混在させる。
- エ．状態を確認し、再使用可能なものを分別して廃棄物発生を抑制する。

答え・解説

正答：エ

ア：発生抑制の機会を失う。
イ：品質確認が必要である。
ウ：誤使用・誤廃棄につながる。
エ：廃棄する前に再使用可能性を検討することは資源循環に有効である。
総合解説：再使用は品質・安全・設計適合を確認した上で行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0117 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

産業廃棄物の収集運搬・処分を外部へ委託する場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．廃棄物種類に応じた許可等を確認し、適切な契約・マニフェスト管理を行う。
- イ．最も安い無許可業者へ口頭で依頼する。
- ウ．委託後は処理終了確認をしない。
- エ．廃棄物種類を伝えない。

答え・解説

正答：ア

ア：排出事業者には委託後も適正処理を確認する責任がある。
イ：不適正処理のリスクがある。
ウ：マニフェスト等で確認する。
エ：適正処理できない。
総合解説：委託契約・許可範囲・処理ルートの確認が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0118 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

現場の廃棄物容器に金属くず、木くず、プラスチック類が混在している。最も適切な改善はどれか。

- ア．混合容器をさらに大きくするだけ。
- イ．分別区分を明確にし、容器・表示・作業者教育を見直す。
- ウ．表示を全て外す。
- エ．資源化可能物も全て最終処分する。

答え・解説

正答：イ

ア：分別改善にならない。
イ：混合状態は再資源化を難しくするため、発生段階での分別が重要である。
ウ：誤投入が増える。
エ：資源循環に反する。
総合解説：分別ルールが守られない原因を作業動線・容器配置からも確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0119 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

残土置場の端に廃プラスチックと電線くずを埋めて処理する案が出た。最も適切な対応はどれか。

- ア．少量なら埋めてもよい。
- イ．土で見えなくすれば問題ない。
- ウ．実施せず、廃棄物として適正な分別・保管・委託処理を行う。
- エ．記録しなければ処理したことにならない。

答え・解説

正答：ウ

ア：量に関係なく適正処理が必要である。
イ：不法投棄等につながる。
ウ：産業廃棄物を現場へ埋めて処分することは適正処理ではない。
エ：不適切である。
総合解説：廃棄物は発生から最終処分まで追跡できるよう管理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0120 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

大規模更新工事で短期間に大量の撤去材が発生し、現場保管場所が不足する。最も適切な計画はどれか。

- ア．撤去材を避難通路へ積み上げる。
- イ．搬出先を決めずに撤去だけ先行する。
- ウ．全種類を混合して一度に搬出する。
- エ．撤去工程と分別・搬出・受入先を連動させ、現場に廃棄物を過剰滞留させない計画を作る。

答え・解説

正答：エ

ア：安全性を損なう。
イ：現場が滞留する。
ウ：分別・再資源化が困難になる。
エ：廃棄物管理は環境だけでなく施工動線・火災・安全・工程にも影響する。
総合解説：撤去量、分別場所、車両手配、処理先を工程表へ組み込む。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0121 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

作業員配置を計画する際の基本として最も適切なものはどれか。

- ア．作業内容に必要な人数、資格、技能、経験を確認して適切に配置する。
- イ．人数だけ多ければ資格は確認しない。
- ウ．経験のない作業員だけで危険作業を行う。
- エ．作業内容と無関係に毎日同じ配置とする。

答え・解説

正答：ア

ア：安全な施工には人数だけでなく、作業に必要な能力・資格・経験の適合が重要である。
イ：資格・技能要件を満たす必要がある。
ウ：適切な指導・配置が必要である。
エ：作業条件に応じて見直す。
総合解説：人員計画は安全・品質・工程の実行可能性を左右する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0122 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

法令や作業内容により資格・特別教育等が必要な作業について最も適切な対応はどれか。

- ア．経験年数だけで資格要件を代替する。
- イ．必要な資格・教育を満たす者を確認して配置する。
- ウ．資格証を確認しない。
- エ．無資格者を単独で作業させる。

答え・解説

正答：イ

ア：法定要件がある場合は代替できない。
イ：危険作業では法令上の資格・技能講習・特別教育等が必要となる場合がある。
ウ：適格性を確認できない。
エ：不適切である。
総合解説：配置前に資格種類、有効性、対象作業との適合を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0123 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

新規に現場へ入る作業員への対応として最も適切なものはどれか。

- ア．経験者なら説明不要とする。
- イ．作業開始後に危険箇所を自分で探させる。
- ウ．現場固有の危険、ルール、避難経路、連絡方法を教育する。
- エ．緊急時連絡先を知らせない。

答え・解説

正答：ウ

ア：現場固有条件は異なる。
イ：事前教育が必要である。
ウ：他現場の経験があっても、その現場固有の危険や運用ルールを理解する必要がある。
エ：初動が遅れる。
総合解説：新規入場時教育は現場の安全ルールを共有する重要な機会である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0124 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

狭い機械室内作業で、作業員を増やし過ぎることが必ずしも安全・生産性向上につながらない理由として最も適切なものはどれか。

- ア．人数が増えると必ず資格が失効するため。
- イ．作業員が多いと機械が自動停止するため。
- ウ．人数は安全と無関係だから。
- エ．作業者同士の干渉、動線混雑、指示伝達の複雑化が生じるため。

答え・解説

正答：エ

ア：そのような関係はない。
イ：一般的ではない。
ウ：大きく関係する。
エ：適正配置は多ければよいのではなく、作業空間や工程に合った人数が必要である。
総合解説：人員配置は作業空間、班編成、指揮系統とセットで計画する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0125 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

地下ピット内で体調悪化や事故時に自力脱出が困難な作業を計画している。最も適切な対応はどれか。

- ア．単独作業を避け、連絡・監視・救助が可能な体制を確保する。
- イ．経験者なら必ず単独でよい。
- ウ．携帯電話が圏外でも単独作業する。
- エ．入場者の所在を記録しない。

答え・解説

正答：ア

ア：事故時に発見・救助が遅れる環境では、複数人作業や監視体制が重要である。
イ：事故時対応が遅れる。
ウ：連絡不能となる。
エ：緊急時確認ができない。
総合解説：作業場所の閉鎖性や通信環境を考えて監視方法を決める。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0126 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

経験の浅い作業者を高所作業班へ配置する。最も適切な対応はどれか。

- ア．初日から最も危険な作業を単独で任せる。
- イ．熟練者と組ませ、役割を限定しながら必要な教育・指導を行う。
- ウ．質問を禁止する。
- エ．熟練者を別作業へ移し監督をなくす。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切である。
イ：経験差を考慮した班編成は、技能伝承と事故防止に有効である。
ウ：理解不足を放置する。
エ：指導体制がない。
総合解説：技能・経験に応じて作業範囲と監督レベルを設定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0127 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

連続した夜間作業で作業員の疲労が蓄積している。最も適切な配置管理はどれか。

- ア．疲労があるほど危険作業へ配置する。
- イ．体調申告を禁止する。
- ウ．休養状況と体調を確認し、必要に応じて交替・作業時間短縮・配置変更を行う。
- エ．人員不足なら無制限に連続作業させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：事故リスクが高まる。
イ：早期対応できない。
ウ：疲労は判断力・注意力を低下させ、安全に影響する。
エ：健康・安全上不適切である。
総合解説：工程回復でも作業者の疲労・休息を無視しないことが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0128 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

同じ場所で電気作業とクレーン作業が重なる。最も適切な人員配置はどれか。

- ア．両班が独自判断で同時作業する。
- イ．責任者を置かない。
- ウ．立入区域を共有しない。
- エ．作業範囲を分離し、各作業の責任者と全体調整者を明確にする。

答え・解説

正答：エ

ア：相互干渉リスクが高い。
イ：指示が錯綜する。
ウ：危険区域へ侵入する可能性がある。
エ：混在作業では班内だけでなく班間の調整責任が必要である。
総合解説：人員配置は作業間のインタフェースまで含めて設計する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0129 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

長時間にわたり監視が必要な重要作業で最も適切な人員計画はどれか。

- ア．休憩中でも監視が途切れないよう交替要員を計画する。
- イ．監視者に休憩を取らせない。
- ウ．監視者不在時間を設ける。
- エ．監視業務を誰にも引き継がない。

答え・解説

正答：ア

ア：重要な監視役を一人に依存すると、休憩・体調不良時に機能が失われる。
イ：疲労による見落としが増える。
ウ：安全機能が途切れる。
エ：継続性がない。
総合解説：重要役割にはバックアップ要員を準備する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0130 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

予定していた有資格者が急病で欠勤し、代替者がいない。最も適切な対応はどれか。

- ア．無資格者へ作業を任せる。
- イ．資格が必要な作業は実施せず、工程を調整して適格者を確保する。
- ウ．資格証を借りて作業する。
- エ．作業記録に資格者名だけ記入する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切である。
イ：人員不足を理由に資格要件を無視してはならない。
ウ：重大な不正である。
エ：虚偽となる。
総合解説：工程変更より安全・法令順守を優先する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0131 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

工程遅延を回復するため作業員を倍増する案が出たが、作業場所は狭く同時作業できる範囲が限られる。最も適切な対応はどれか。

- ア．人数を増やせば必ず工期は半分になる。
- イ．狭い場所へ全員を同時投入する。
- ウ．作業分割や時間帯分散を含め、増員が本当に生産性向上につながるか評価して配置する。
- エ．指揮者を減らす。

答え・解説

正答：ウ

ア：資源制約を無視している。
イ：干渉が増える。
ウ：単純増員は混雑や待ちを増やし、かえって生産性・安全性を低下させることがある。
エ：増員時ほど指揮が重要である。
総合解説：工程回復策は人員・空間・作業分割・安全を総合評価する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0132 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

高所作業車を使用して通信設備を交換し、同時に電気配線も行う班を編成する。最も適切な対応はどれか。

- ア．班に資格者が1人いれば全員が全作業を自由に行う。
- イ．資格確認を作業後に行う。
- ウ．役割分担を決めない。
- エ．高所作業車、電気作業等に必要な資格・教育を作業内容ごとに確認し、役割分担を明確にする。

答え・解説

正答：エ

ア：個々の作業要件を確認する必要がある。
イ：事前に確認する。
ウ：誤操作・無資格作業につながる。
エ：複合作業では一つの資格だけで全作業をカバーできるとは限らない。
総合解説：作業分解と資格マトリクスを対応付けると配置ミスを防ぎやすい。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0133 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

2025年6月施行の改正労働安全衛生規則で、熱中症対策の強化対象となる作業条件として最も適切なものはどれか。

- ア．WBGT28 以上または気温31 以上で、連続1時間以上または1日4時間を超えることが見込まれる作業。
- イ．WBGT20 以上なら時間に関係なく全て対象。
- ウ．気温40 以上だけが対象。
- エ．作業時間に関係なく気温だけで決まる。

答え・解説

正答：ア

ア：厚生労働省はこの条件を『熱中症を生ずるおそれのある作業』として体制整備等の対象としている。
イ：規定条件と異なる。
ウ：規定条件より高すぎる。
エ：温熱条件と作業時間の双方がある。
総合解説：現場では法定対象に達する前から予防対策を行うことが望ましい。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0134 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

熱中症を生ずるおそれのある作業で事業者に求められる体制として最も適切なものはどれか。

- ア．症状があっても作業終了まで報告させない。
- イ．自覚症状がある者や異常を発見した者が報告できる連絡先・担当者を定め、関係者へ周知する。
- ウ．報告先を決めない。
- エ．管理者だけ知り作業者へ知らせない。

答え・解説

正答：イ

ア：重篤化の原因となる。
イ：改正規則では熱中症の早期発見のため報告体制の整備・周知が義務付けられている。
ウ：体制整備義務に反する。
エ：周知が必要である。
総合解説：『早く見つけ、素早く対応する』ための仕組みが重視されている。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0135 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

熱中症のおそれがある作業者を発見した場合の初期対応として最も適切なものはどれか。

- ア．そのまま作業を継続させる。
- イ．意識が悪くても一人で帰宅させる。
- ウ．作業から離脱させ、身体を冷却し、必要に応じて医療機関へつなぐ。
- エ．冷却や医療判断を一切しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：重篤化するおそれがある。
イ：危険である。
ウ：改正規則では症状悪化防止のための対応手順をあらかじめ定めることが求められている。
エ：適切な処置が必要である。
総合解説：緊急搬送先・連絡先も事前に定めておく。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0136 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

真夏の屋外作業で気温だけでなくWBGTを測定する主な理由として最も適切なものはどれか。

- ア．WBGTは騒音だけを測る指標だから。
- イ．気温と必ず同じ値だから。
- ウ．測定値は作業管理に使えないから。
- エ．湿度、日射・輻射等を含む暑熱ストレスを総合的に評価しやすいため。

答え・解説

正答：エ

ア：暑熱環境指標である。
イ：異なる指標である。
ウ：休憩・作業強度調整等に活用する。
エ：WBGTは熱中症リスク評価に広く用いられる暑さ指数である。
総合解説：WBGTに応じて休憩、作業時間、服装、冷却設備等を調整する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0137 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

暑熱環境下での水分・塩分補給として最も適切なものはどれか。

- ア．のどの渇きだけに頼らず、作業条件に応じて計画的に補給する。
- イ．休憩まで一切飲水しない。
- ウ．アルコールを水分補給として使用する。
- エ．大量の水だけを一度に飲めば常に十分とする。

答え・解説

正答：ア

ア：暑熱作業では発汗による水分・塩分喪失を補う必要がある。
イ：脱水リスクが高まる。
ウ：適切ではない。
エ：継続的な補給が重要である。
総合解説：持病等により塩分制限がある場合は個別の健康管理も必要となる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0138 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

長期休暇明けに猛暑日の屋外作業を再開する場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．初日から最大負荷で連続作業させる。
- イ．暑さへの順化が低下している可能性を考慮し、作業負荷を段階的に上げる。
- ウ．休暇明けは順化が必ず向上していると考える。
- エ．暑さへの慣れは熱中症と無関係である。

答え・解説

正答：イ

ア：危険が高まる。
イ：暑熱順化が不十分な時期は熱中症リスクが高くなる。
ウ：逆の場合がある。
エ：重要なリスク因子である。
総合解説：新規入場者や休業後の復帰者にも順化を考慮する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0139 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

朝礼で作業員が睡眠不足と体調不良を訴えた。猛暑下の屋外作業へ配置する場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．本人が来た以上、通常どおり最も負荷の高い作業へ配置する。
- イ．体調申告を禁止する。
- ウ．健康状態を確認し、必要に応じて作業軽減・配置変更・休養を行う。
- エ．異常が起きるまで何もしない。

答え・解説

正答：ウ

ア：危険である。
イ：早期発見を妨げる。
ウ：睡眠不足や体調不良は熱中症等のリスクを高める。
エ：予防的対応が必要である。
総合解説：日々の体調確認は熱中症・健康障害の予防に有効である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0140 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

作業員が大量発汗、ふらつき、反応の鈍さを示した。最も適切な対応はどれか。

- ア．本人が大丈夫と言えば単独で作業へ戻す。
- イ．日陰で数分座らせるだけで必ず終了とする。
- ウ．報告せず記録もしない。
- エ．直ちに作業を中止・離脱させて冷却し、状態を確認して必要なら救急要請・医療機関受診を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：状態悪化の危険がある。
イ：症状に応じた医療判断が必要である。
ウ：体制に基づき対応する。
エ：意識や反応の異常は重症化の兆候となり得るため、迅速な対応が必要である。
総合解説：熱中症対応では早期発見、作業離脱、冷却、医療判断、連絡を一連で行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0141 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

WBGTが高い日に屋上で重量物運搬とアンテナ作業を予定している。最も適切な計画はどれか。

- ア．作業時間帯変更、休憩増加、作業負荷軽減、冷却場所、水分補給、監視体制を組み合わせる。
- イ．最も暑い時間帯へ集中して施工する。
- ウ．休憩を削って早く終わらせる。
- エ．水だけ準備すれば作業負荷は考えなくてよい。

答え・解説

正答：ア

ア：高温環境と高作業負荷が重なる場合、一つの対策だけでは不十分である。
イ：熱中症リスクが高い。
ウ：重篤化リスクがある。
エ：複合的な対策が必要である。
総合解説：工程調整も有効な熱中症予防策となる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0142 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

工事現場の災害時対応で、事前に整備すべきものとして最も適切なものはどれか。

- ア．連絡先は事故発生後に調べる。
- イ．責任者、発注者、消防・警察、設備管理者等への緊急連絡体制。
- ウ．責任者を決めない。
- エ．緊急連絡表を作業者へ知らせない。

答え・解説

正答：イ

ア：初動が遅れる。
イ：災害発生時は短時間で関係者へ情報を伝えられる体制が必要である。
ウ：指揮が混乱する。
エ：利用できない。
総合解説：連絡体制は現場掲示や携帯できる形で周知する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0143 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

災害時に備えた避難経路の管理として最も適切なものはどれか。

- ア．避難通路を資材置場として使う。
- イ．集合場所を決めない。
- ウ．避難経路・集合場所を定め、資材等で塞がないよう常時確保する。
- エ．新規入場者へ避難経路を教えない。

答え・解説

正答：ウ

ア：避難を妨げる。
イ：安否確認が難しい。
ウ：緊急時に使う経路は平常時から利用可能な状態に維持する必要がある。
エ：初動が遅れる。
総合解説：避難経路は工事進捗で変わる場合があるため、変更時に再周知する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0144 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

作業中に強い地震が発生した。最も適切な初動はどれか。

- ア．揺れている最中でも高所作業を続ける。
- イ．足場点検せず直ちに再開する。
- ウ．安否確認を行わない。
- エ．作業を停止して身の安全を確保し、揺れ収束後に設備・足場・地山等の安全を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：危険である。
イ：変状確認が必要である。
ウ：作業員の状況確認が必要である。
エ：地震後は仮設構造物や地山に変状が生じる可能性がある。
総合解説：地震後は再開条件を確認し、安全が確保されるまで作業を再開しない。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0145 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

短時間豪雨により掘削部の水位が急上昇している。最も適切な対応はどれか。

- ア．掘削内作業員を退避させ、排水・土止め・周辺地盤の安全を再確認する。
- イ．作業員を掘削底へ増員する。
- ウ．排水ポンプがあるので退避不要とする。
- エ．水位上昇を記録せず作業を続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：急激な水位上昇は冠水・地山崩壊等の危険を高める。
イ：危険が高まる。
ウ：故障・能力超過の可能性がある。
エ：不適切である。
総合解説：気象警報や現場変状に応じた停止・退避基準を事前に決める。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0146 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

屋上でアンテナ工事中に雷鳴が近づいた。最も適切な対応はどれか。

- ア．アンテナを持ったまま作業を急ぐ。
- イ．高所・屋外作業を中止し、安全な場所へ退避する。
- ウ．雷が見えなければ音だけなら無視する。
- エ．高所ほど安全なので屋上へ残る。

答え・解説

正答：イ

ア：危険である。
イ：アンテナや金属部材を扱う屋上は落雷リスクが高い。
ウ：接近の兆候である。
エ：逆である。
総合解説：雷の接近予報・警報を利用し、再開条件も定める。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0147 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

通信ラック内で発煙を確認した。最も適切な対応はどれか。

- ア．煙が出ても作業を続ける。
- イ．電気火災に不適切な消火方法を無検討で使う。
- ウ．周囲へ知らせ、可能な範囲で電源遮断・初期消火を行い、必要なら避難・消防通報する。
- エ．他の作業者へ知らせない。

答え・解説

正答：ウ

ア：危険である。
イ：感電等の危険がある。
ウ：火災時は人命安全を最優先し、感電等の二次災害にも注意する。
エ：避難が遅れる。
総合解説：初期消火は安全に実施できる範囲に限り、無理なら退避する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0148 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

重機事故で負傷者が発生した。最も適切な初動はどれか。

- ア．写真撮影を優先して救護を遅らせる。
- イ．事故機械をすぐ再稼働する。
- ウ．事故を隠して報告しない。
- エ．救護と二次災害防止を優先し、必要な通報・連絡後、調査に必要な範囲で現場状況を保存する。

答え・解説

正答：エ

ア：人命救助が最優先である。
イ：二次災害の危険がある。
ウ：不適切である。
エ：人命救助が最優先であり、その後の原因調査に必要な情報も確保する。
総合解説：緊急時対応は救護、隔離、通報、記録、再発防止の順で整理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0149 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

大規模地震後、現場作業員の一部と連絡が取れない。最も適切な対応はどれか。

- ア．事前に定めた集合場所・連絡網・入退場記録を使って安否確認し、無理な搜索で二次災害を起こさない。
- イ．人数を確認せず全員帰宅したとみなす。
- ウ．危険区域へ単独で搜索に入る。
- エ．入退場記録を平常時から残さない。

答え・解説

正答：ア

ア：災害時は在場者情報と連絡手段を用いた組織的な安否確認が必要である。
イ：行方不明者を見逃す。
ウ：二次災害の危険がある。
エ：安否確認に使えない。
総合解説：在場者管理は災害時対応の基盤となる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0150 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

台風接近中に停電し、掘削部の排水ポンプが停止すると同時に仮囲いの一部が倒れた。最も適切な対応はどれか。

- ア．ポンプ復旧だけを優先し倒れた囲いを放置する。
- イ．作業員・第三者の安全確保と退避を優先し、危険区域を封鎖した上で予備電源・排水・仮囲い復旧を安全な順序で行う。
- ウ．工程遅延防止を最優先し作業を続ける。
- エ．各班が独自判断で同じ危険区域へ入る。

答え・解説

正答：イ

ア：第三者災害が残る。
イ：複数事象が同時発生した場合は、人命・二次災害防止を最優先して対応順位を決める。
ウ：危険である。
エ：統一指揮が必要である。
総合解説：災害対応計画には優先順位、指揮命令、予備設備、避難・連絡を含める。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20